

最新 日本语能力测试

2 级

读解 备考策略

丛书主编◆李鹏
本册主编◆孙雪

佳禾外语
JIANHEWAIYU

- ✿ 22个小单元精准剖析读解主题，精选练习文章，由易到难、题材广泛
- ✿ 贴心归纳提问方式，科学总结解题技巧，快速掌握读解解题方法
- ✿ 热身练习和模拟练习相辅相成，读解备考有的放矢、事半功倍



外文出版社
FOREIGN LANGUAGES PRESS

最新

RIBEN YU NENGLI CESHI

日本语能力测试

②级读解备考策略

丛书主编◆李 鹏

本册主编◆孙 雪



外文出版社
FOREIGN LANGUAGES PRESS

最新日本语能力测试2级读解备考策略

图书在版编目(CIP)数据

最新日本语能力测试2级读解备考策略 / 李鹏主编.

北京: 外文出版社, 2009

ISBN 978-7-119-05675-3

I. 最… II. 李… III. 日语—阅读教学—水平考试—自学参考资料

IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 043953 号

责任编辑: 刘承忠 佟 盟

装帧设计: 王付青

印刷监制: 张国祥

日本语能力测试备考策略

最新日本语能力测试2级读解备考策略

主 编: 李 鹏

©2009 外文出版社

出版发行: 外文出版社

地址: 北京西城区百万庄大街 24 号 邮政编码 100037

网址: <http://www.flp.com.cn>

电话: (010) 68320579 / 68996067 (总编室)

(010) 68995844 / 68995852 (发行部)

(010) 68327750 / 68996164 (版权部)

印 制: 肥城新华印刷有限公司

经 销: 新华书店 / 外文书店

开 本: 700×1000mm 1/16

印 张: 12.50

字 数: 120 千字

装 别: 平

版 次: 2009 年第 1 版 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-119-05675-3

定 价: 19.00 元

建议上架: 外语

版权所有 侵权必究 有印装问题可随时调换

前言

外语是一门学问,同时也是传达思想、表达意愿的工具。复杂的心理活动和微妙的语言现象要求外语学习和外语工作者必须熟练地掌握听、说、读、写、译五项基本技能。大家知道,日语的口语语言和书面语言界限比较明显,尤其是书面语言,在语法、句型、词汇等方面都有它独自的规律和特点。在实际工作中,间接的语言交际,即靠文字而非声音进行的交际,占有举足轻重的地位。所以,日语的外语教育很重视文章的阅读理解,这是有其道理的。

本书的编写目的,旨在加强日语基本功训练、提高文章读解能力及应试能力。适用于2级考生。书中通过讲解句子的结构、接续词及常用表达方式等,引导读者准确地理解句子的含义。每小节的练习文章均由短到长,由易到难,使读者从基础入手,循序渐进,最终达到读解长篇文章的目的。全书分为「基本技術」、「長文の読み方」和「実践練習」三大部分。所选文章题材广泛,内容丰富,实用性、趣味性、知识性强。相信通过大量的读解练习,不仅会逐步提高文章的读解能力,而且还会从中学到许多新知识。

在编写过程中,笔者结合了日语教育的实情及特点,参阅了大量有关日语能力测试读解方面的相关资料,使其内容趋于合理化、系统化。本书可以说是一本比较全面的综合读解技能训练教程,也是提高文章读解能力、参加日语能力测试的必读教材。

由于水平有限,编写时间仓促,错误不当之处在所难免,诚请批评指正。

编者

18 文と文をつなぐ言葉

19 長文によく使われる表現①

20 長文によく使われる表現②

21 キーワード探し

22 主題・大意・要点をつかむ

第二章 長文の読み方

練習1

練習2

練習3

練習4

目 录

第一章 基本技術

1	それはだれのこと？	2
2	それはいつのこと？	5
3	どんな気持ち？	7
4	(……)の中に入るのは？	9
5	何を言いたいのか？	13
6	答えは文章の中に書いてある！	15
7	「これ」「それ」①	18
8	「これ」「それ」②	20
9	「これ」「それ」③	23
10	結論を探せ！	26
11	たとえと本論の区別	30
12	意見を言いたいときの疑問文	32
13	否定「ない」に注意！	34
14	文の骨組み	37
15	省略	39
16	グラフを読む①	42
17	グラフを読む②	45
18	文と文とをつなぐ言葉	47
19	長文によく使われる表現①	49
20	長文によく使われる表現②	51
21	キーワード探し	53
22	主題・大意・要点をつかむ	55

第二章 長文の読み方

練習 1	62
練習 2	64
練習 3	66
練習 4	68

目次

第1章 基本練習

練習 5	70
練習 6	72
練習 7	74
練習 8	76
練習 9	78
練習 10	80

第三章 実践練習

模擬試験 1	83
模擬試験 2	91
模擬試験 3	100
模擬試験 4	108
模擬試験 5	116
模擬試験 6	125
模擬試験 7	135
模擬試験 8	146
模擬試験 9	156
模擬試験 10	165
模擬試験 11	173

解答

第一章	185
第二章	189
第三章	190

第2章 応用練習

練習 1	191
練習 2	192
練習 3	193
練習 4	194

基本技術

上野 賢一

(注1)オーバー・態度、動作が、
 (注2)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 仕事熱心とを必要とする。そのためには、まず、自分の仕事に
 ① 外国人
 ② 普通の日本人
 ③ 特別な日本人
 (注3)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注4)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注5)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注6)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注7)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注8)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注9)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。
 (注10)関の山:多く見積もつても、そのくらいが最適だということ。

ポイント ⇨ 文章に主語が表れているかどうか注意!

▲ 主語が離れている場合



「～は…である」という文型に注意する。

▲ 主語が現れていない場合



主語は「私」「自分」「筆者」であることが多い。

▲ 何人か人物が出てくる場合



人物の関係や時の流れに注意する。

練習 1

田中さんは上田さんが自殺を図った事件に首を突っ込まなかったから、無事だったんだ。
(注)

(注)首を突っ込む:仲間に加わる。そのことに関係する。

【問い】「無事だった」とあるが、誰が無事だったのか。

- ① 田中さん
- ② 上田さん

練習 2

他人の意見より自分の意見のほうが正しいと思いがちである。しかし、自分の意見は、思うほど正しくないことも多い。

【問い】「思う」とあるが、だれが思うのか。

- ① 他人
- ② 自分

練習 3

女性のストレス解放の方策のトップには、買い物とおしゃべりとのことである。

(注)

なぜ、買い物がストレス解消効果があるのか、よくわからないが、おしゃべりの方の効果は、体験的にも、よくわかる。

(注) ストレス: 精神的・肉体的刺激によって生じる心身のひずみ。また、そういう刺激。

【問い】「わかる」とあるが、だれがわかるのか。

- ① 女性
- ② 著者

練習 4

外国の人と接すると、よく「日本人には表情がない」というふうに言われます。外国ではかなり表情をオーバーに出します。必ずしも顔だけではなく身振りや手振りでオーバーに自分を表現します。それに対して日本人はどちらかという、感情

(注1)

を外に出すのはあまりよくないことだと教えられてきましたから、表情による自己表現が得意ではありません。相手に好意を示すために、にこにこ笑うのが関の山です。

(注2)

(注1) オーバー: 態度、動作がおおげさである。

(注2) 関の山: 多く見積もっても、そのくらいが限度だということ。

【問い】「にこにこ笑う」のはだれか。

- ① 外国人
- ② 普通の日本人
- ③ 訓練をした日本人

練習 5

わたしは講演を頼まれたとき、自分の経験をよく話すのだが、その話が、聞く側にとって魅力あるものであることが分かれば、内に隠れていた体験や経験が次から次へと湧き出てくるのである。その結果、講演のテーマと大幅にずれ、関係者をあわてさせることがよくある。

(注)

(注) ずれる: 基準・標準となるものからはずれる、また、へだたる。

【問い】「分かれば」とあるが、だれが分かるのか。

- ① 話をしている自分

- ② 話を聞いている人
- ③ 関係者
- ④ 話をしている自分とそれを聞いている人

練習 6

ぼくが相撲に興味を持ったのはいつごろのことであろうか。父親が大の相撲好きとあって、物心がついたときから力士の名前を口にし、テレビの前で応援していたものだ。^(注1)ぼくは強い力士が好きだった。大鵬の大ファンであった。とにかく大鵬^(注2)は強かった。大鵬の引退後、この上なく強いと思われた北の湖が現れたが、^(注3)ぼくの心の中では大鵬が強かった。強さと容姿を兼ね備えた千代の富士が出てきたとき、確にかっこいいと思ったが、ぼくの思う強さではなかった。そして、ぼくと親子ほど年の違う貴乃花が出てくるまで、大鵬に勝つ力士はもう現れないと思っていたのだった。今やその貴乃花も引退してしまい、さみしいかぎりだ。

(注1)物心がつく:子供が世の中の裏表やデリケートな人間関係や人の気持ちなどについて分かり始める。

(注2)大鵬、北の湖、千代の富士、貴乃花:力士の名前。

(注3)この上ない:これに勝るものはない。これ以上ない。最高の。

【問い】筆者はどの力士がいちばん好きだったのか。

- ① 大鵬
- ② 北の湖
- ③ 千代の富士
- ④ 貴乃花

【問い】「無事だった」とあるが、誰が無事だったのか。

- ① 田中さん
- ② 上田さん

ポイント ⇨ 実際に起きたことかどうか考えよう！

▲ 仮定法の中の「時」に注意！



もし、当時、あなたが困っているということを知っていたら。

(実は、知らなかった)

私は、助けることができたのに……。

(実は、助けることができなかった)

▲ 話の流れに注意！

練習 1

事件が起きうる可能性を予測しながら、放置してきた大人たちが非難されるべきだ。

(注1)

(注2)

(注1)～うる:…することができる。…する可能性がある。

(注2)放置:かまわずに、そのままにしておくこと。

【問い】「事件」とあるが、事件は起きたのか、まだ起きていないのか。

① まだ起きていない。

② もう起きた。

練習 2

自分の夢を実現するために、わたしはあらゆる努力も惜しまなかった。しかし、

(注1)

どんなに努力しても夢は遠くなるばかりで絶望の境地に陥った時期もあった。あ

(注2)

の時あきらめていたら、今のわたしはなかったであろう。

(注1)惜しむ:少しでも無駄にならないように大切にすること。

(注2)陥る:よくない状態にはまりこむ。

【問い】「自分の夢」とあるが、その夢は実現したのか。

① 実現しなかった。

② 実現した。

練習3

電話を前にして、彼女に僕の恋心を告げるべきかどうか非常に心が揺れていた。昔の僕だったら、ためらいもせず告白しただろうに。今回ほど断られることが怖い(注)と思うことはない。電話番号を聞く勇気はあったじゃないか、軽く映画にでも誘えばいいじゃないか、と言いつ聞かせながら、今日もまた時間が過ぎていった。

(注)～ほど～はない:ある事柄を例示し、動作・状態の程度を表す。最も程度の甚だしいことを言う。

【問い】実際に起きたことはどれか。

- ① 僕は彼女に電話をした。
- ② 僕は彼女に自分の気持ちを伝えた。
- ③ 僕は彼女に電話番号を聞いた。
- ④ 僕は彼女を映画に誘った。

練習4

子どものころ、よく図書館へ行って本を借りたものだ。自分では楽しんで本を読んでいるという意識はなかった。読み終えた本を返しに行くとそこに、当然のことだが、未知の本があり、それをまた借りるということを繰り返していたのだ。中学に入学したころからは、学校のレポート提出などのためにしか本を読まなくなった。それは一種の作業のようなものであった。社会人になってから、読みたい本ぐらいいくらでも買えるようになったが、仕事絡みで必要に迫られてのことが多(注1)(注2)い。今思うと、図書館通いをしていたあのころが、本当に読書を楽しんでいたと言えるのかもしれない。

(注1)仕事絡み:仕事に関係して。

(注2)必要に迫られて:必要でどうしてもしなければならなくて。

【問い】筆者が本当に読書を楽しんでいたと思われるのはいつか。

- ① 子どものころ
- ② 子どものときからずっと今も
- ③ 中学生のころ
- ④ 仕事をするようになってから

第 3 节

どんな気持ち?

ポイント ⇨ 表情や感情を表す言葉を見つけよう!

- ▲ 読み手の気持ちは入れない
- ▲ 常識だけで判断しない
- ▲ 次のような言葉に注意!

表面・外見・一見

内心・本心



実は心の中は違う

外には反対の形で表われる

練習 1

彼は、娘が留学をあきらめずにいることを知って、ため息をついた。

【問い】彼の気持ちは次のどれに近いか。

- ① うれしい
- ② うれしくない

練習 2

彼女は、上司にどんな命令をされようとも、いやな顔一つせず従った。しかも表面的には楽しそうに仕事していたので、同僚の絵里子を除いてだれも、彼女の^(注)本心は分からなかった。

(注)～(う)ようとも：…にかかわりなく、どんなことになろうとも。

【問い】「彼女の本心」とは、ここではどのようなことか。

- ① 仕事をいやだと思っている。
- ② 仕事を楽しいと思っている。

練習 3

あるボランティアの人の話では、最初は涙を流して感謝されたことであっても、

時間がたつにつれ、ボランティアを受ける側にとってそうされることが当たり前となり、最後には手伝っている側がむっとするようなことがよくあるそう。そのよ

^(注)うな経験がボランティアの長続きを妨げているのだという。

(注)むっとする:突然感じる怒りや不快感を表情にあらわにした様。

【問い】この場合のボランティアをする人たちの気持ちは次のどれに近いか。

- ① いやなこともあるが、ボランティアをすることは自分にとって大切だ。
- ② ボランティアといっても、相手にいやがられることが多く、悲しい。
- ③ 結局いやな気持ちにさせられることが多く、ボランティアをやめたくなる。
- ④ 自分にはボランティアの仕事は向いていないと思う。

練習 4

人間には、分からないことや知らないことがあって当然である。ただわたしの分からないことや知らないことは、世間では常識的なことが多いように思う。だから、それがみんなが知っていることだということが分かると、つい、分かったふりをしてしまう。どうして「分からない」「知らない」と言えないのか。自尊心が強いからというより、物事に対してあまりにも鈍感である自分をさらけ出したくないのである。^(注1)

^(注2)(注1)さらけ出す:隠さず、すっかり出す。ありのままに見せる。

(注2)～たいものだ:「たい」「ほしい」などの欲求を表す表現とともに使って、その気持ちを強調するのに用いる。

【問い】筆者がいちばん言いたい気持ちは次のどれか。

- ① 常識的なことは知っておきたい。
- ② 他人に自分がわからないということを知られたくない。
- ③ わからないことは「わからない」と言いたい。
- ④ 物事に対して敏感でありたい。

第4节

()の中に入るのは?

ポイント ⇨ ()の位置によって考え方を変えよう!

▲().....。



前後の関係をよく比較して考える。

▲()。



主語を探す。そして、その主語について書いてある文を探す。たいてい同じ内容のことが書かれている。

▲().....().....().....。



これらの()の前に、必ず同じ内容について書いてある文がある。対比になっている言葉を選ぶ。

▲ 主語の部分に()がある場合も、前の文で同じように使われている言葉を選ぶ。

練習1

抗生物質の開発によって、人類は伝染病を()かのような錯覚を起こしている。

(注)

(注)抗生物質:伝染病などを防ぐ薬の一種。

【問い】()の中に入る適当な言葉を選びなさい。

- ① 克服した
- ② 広めた

練習 2

賭事に()、借金がかさんだその男は「家を出ろ」とおどかされて、おどおどと
言い訳をしている。
(注)

(注)かさむ:物などの数量が大きくなる。

【問い】()の中に入る適当な言葉を選びなさい。

- ① 手を出し
- ② 手を貸し
- ③ 手を抜き
- ④ 手を入れ

練習 3

(前略)かつて私たちの国では、花の美しさというように、抽象観念によって美しいものをとらえようとする言い方も乏しく、したがってそのような考え方もほとんどなかった。()、というような言葉や考え方を私たちに教えてくれたのは、やはり西欧舶来の言葉であり、その翻訳語だったのである。

(注)

(柳父章『翻訳語成立事情』岩波新書による)

(注)西欧舶来:西洋から来た。

【問い】この文章の()の部分には、どんな内容の表現を入れることができるか。

- ① 花の美しさ
- ② 抽象観念

練習 4

昔は、子どもは親を尊敬し、親は子どもに命令し、子どもが命令されて動くことは当然の日常であった。このような上下関係がいつのまにか()、現在は対等な立場で親子関係が築かれる世の中となった。そして、それがあるべき愛の形であると理解している者が大半であるが、好ましくない状態であると嘆く者も多くいるのである。

【問い】()の中に入る適当な言葉を選びなさい。

- ① 進歩し
- ② 逆転し
- ③ 変化し
- ④ 変更し

練習 5

学校の教師をしていて、おもしろくも不思議にも思うのは、教室で学生たちがいつも()ことだ。百人ほど入る教室に、二、三十人しか学生がいらない場合、その学生たちは、なるべく教師から遠いところに、壁に沿って散らばっている。彼らは、教師とある「へだたり」を感じており、それを「物理的間隔」によって表現しているのである。

【問い】()の中に入る文として最も適当なものを選びなさい。

- ① 壁から離れた席を好む。
- ② 講義を欠席しがちである。
- ③ 教師と一定の距離を置きたがる。
- ④ 前から後ろまでバラバラに席を取る

練習 6

人の脳は大きく、論理や言語を処理する左脳と、情緒的な感情を処理する右脳に分けられる。したがって、音楽家や画家などは右脳が、学者や作家などは左脳が発達していると考えられる。一般的に、人は毎日の生活では言葉を話したり仕事を論理的に処理したりすることが多いため、(A)をよく使うが、そんなときは音楽を聞いたりして(B)を使うようにすると、脳の血液循環がよくなり、同時に(C)は休息ができるのである。

【問い】(A)～(C)には、「右脳」か「左脳」が入る。その組み合わせとして最も適当なものを選びなさい。

- ① A 左脳 B 右脳 C 左脳
- ② A 右脳 B 左脳 C 右脳
- ③ A 左脳 B 左脳 C 右脳
- ④ A 右脳 B 右脳 C 左脳

練習 7

現代人は宵つぱりの朝寝坊になり、勉強は夜がふけてからでないとできないという学生も増えている。^(注1)早起きといえば老人くさいと笑われる始末である。しかし、こと私自身に関するかぎり、朝の頭脳のほうが夜よりも優れているようだ。夜さんざん考えても、いい知恵は浮かばない。「だめだ。明日の朝にしよう。」と思う。『^(注2)』という諺がちらっと頭をかすめるが、それをふりきって寝てしまう。翌朝もう一度挑んでみる。すると、あんなにやつかいに見えた問題が苦もなく片づいてし